

[第662回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 令和5年11月8日(水) 午後2時00分～3時00分

2. 開催場所 大阪放送 大会議室

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

出席の総数 6名

出席委員の氏名 成瀬 國晴 河内 厚郎
上林 寛和 内田 透
たつみ 都志(書面参加)
鎌田 雅子(書面参加)

放送事業者側出席者の氏名

吉野 達也 志知 直哉
上野 慶子 原田 年晴
赤松 加枝子

4. 議題

1) 審議番組 「原田年晴かぶりつきフライデー!防災スペシャル」

2) 「大阪を前へ!」「兵庫を前へ!」について

3) その他

5. 議事の概要

議題1) 『原田年晴かぶりつきフライデー!防災スペシャル』について、番組の企画意図と内容を説明し、意見を聞いた。

社 側 原田年晴アナウンサーが、時事ネタから健康、ご近所ネタ、旅、グルメなど様々な情報を“かぶりつき”でお送りする180分です。今回審議していただく内容は、2023年9月1日（金）の放送で、今年の9月1日は関東大震災からちょうど100年でした。ラジオ大阪では「防災スペシャル『明日（あした）のために、今できること。』」と題し、「かぶりつき」など当日4つのワイド番組がリレー方式で、防災に関する情報や災害にいかに対応できるかについてお届けしました。「防災スペシャル」は年4回程度実施しており、今年で4年目となります。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

<各委員のご意見>

委 員 「防災ラジオステーション」を標榜するラジオ大阪の防災番組ということで、どんな内容なのかと興味を持った。全体的には、予想をしていた以上にバラエティに富んだ内容で、リスナーに楽しく・かつ、まじめに聴いてもらいたいという制作側の努力が伝わった。電話インタビューの国際災害レスキューナース・辻さんは、話が上手で原田さんも話がのびのびしていて、リスナーの方もおそらく同じように辻さんの「話術」にはまったのではないかと。欲を言えば、電話なので一部専門用語や早口になる部分が聞き取りにくく、事前収録というかたちでもよかったと思う。旅やグルメ情報を扱う番組ということで常磐ものを取り上げられたのだと思うが、福島県産の海産物と防災を結びつけるのは個人的に少々強引かな、と思った。（特に処理水云々…）いわき市・村瀬さんとスタジオとのやりとりで、福島県産の海産物の魅力は十分伝わった。この常磐もの、しらべてみると平成27年10月からスタートということなので、普通に震災からの復興の一環として、という取り上げ方でよかったと思う。大正橋の江戸時代の震災の石碑など、昔の人が災害についていろいろ書き記していた、ということは知っていたが、教科書にも出てくる方丈記にそのような内容がある、ということが知れて勉強になった。内容の解説から本文朗読の流れも、先に内容を聞いているので難しい古文もわかるような気がした。今後も、防災の本質を伝えつつ、多くのリスナーに届く、聴きやすい番組作りを期待している。

委 員 さすが、原田さんと和田さんというゴールデンコンビ。安心して聞いていただける。辻さんはキャラが立っていて、話の内容も新鮮。もっと具体的に聞きたいと思った。「防災を極めると生活の質が爆上がりする。3つの力<決断力・行動力・アレンジ力>が上がる」というのは至言だと思う。ぜひ、スタジオにきていただいて、詳しく聞きたい。「方丈記」に「地震」の場面が詳しく載っていることは知っていますが、一般の方には新鮮だったのだと思う。ただ、末尾で先に原田さんの現代文の朗読があり、そのあと和田さんの原文朗読がありましたが、古語の方は冗漫に思えました。

フレーズごとの対応、もしくは箇条書き的な対応をしてもよかったのではないか。

委員

防災・減災の意識を高める番組という、とっつきにくくなりそうだが、この番組には随所にリスナーを引き付ける工夫があり、一つのラジオ番組として楽しみながら、防災の知恵を学ぶことができた。原田アナ、和田アナのテクニックの高さをベースに、丁寧な解説が加わり、新たな気づきもあり、という展開が聴きやすかった。関東大震災に関するオープニングトークは火災が被害を広げたという本筋のほか、関東大震災の余波が「大大阪」の形成につながり、さらには2024年に創業100周年を迎える大阪・関西企業が多いという話には気づきを貰った。国際災害レスキューナースの辻さんのインタビューも興味深かった。「防災は面白い」という言葉にはインパクトがある。「防災を極めると生活の質が爆上がりする」「決断力、行動力、アレンジ力の3つの力が手に入る」という話にひきつけられたリスナーも多かったのではないか。話の内容も、自分もやってみようという気になるものだった。「ご当地かぶりつきの旅」に登場したいわき市の村瀬さんも暖かそうな人柄が伝わる口調で、とても良かった。関西人にとってなじみの薄い福島県産の水産物がどこで買えるのか、食べられるのかという情報も織り込まれていてよかった。このほか、方丈記の紹介も興味をかきたてられた。こんなに昔から「風化」について警鐘が鳴らされていたというのは非常に驚いた。全体的に飽きの来ない盛りだくさんの構成となっており、とてもいい番組だった。

委員

原田アナの語りは、いつもながらとても聞きやすい。関東大震災の描写も目に浮かぶような表現。和田アナのリアクションは大阪のご婦人、2人でボケとツッコミというイメージで楽しい。関東大震災を受けて「大大阪」が生まれたということは、今まで知らなかった。「常磐もの」東日本震災の処理水による風評被害と戦っている中、常磐もののおいしさをPRしている。いわき市の村瀬さん、素朴な語り口だがとても聞きやすい。防災に絡めて地域の応援をしているのはラジオの使命を果たしていると言える。鴨長明の「方丈記」についての話に関して、諸行無常という世界観の根底には自然災害の影響もある、という説に説得力がある。方丈記の原文音読は心地よく聞き入ってしまった。和田アナが読むと柔らかい印象となり頭に入って来やすい。「防災」というと、政府からのお願いみたく堅苦しい、面白みのない内容となるところだが、辻さんのトーク、常磐ものの応援インタビュー、方丈記に絡めた地震のエピソードなど多彩な内容で飽きさせない。見事な構成である。

委員

国際災害レスキューナースの辻さんは「防災は楽しい」「決断力・行動

力・アレンジ力」など、言葉を整理してキーワードを出すのがうまい。いわき市の話も自分は知らない話だったし、おいしそうだったので興味を持った。府庁の食堂で福島県の魚を出しているという話も良い話だった。案外知られていないのではないか。関東大震災は、まだ語り継がれている方だと思う。東日本大震災から被災の映像が増えたので、これからその映像が防災・減災にどう活かされるのか気になる。雑学的知識が身につけて非常に良い番組だった。強いて言えば、締めのコメントでもう一步踏み込んだ感想・提案が欲しかった。

委員 普通の防災番組とは違う面が勉強でき、尚且つきちんとした情報も盛りだくさんの番組だった。特にオープニングトークは凄く面白かった。関東大震災後は大阪が経済だけではなく、文化面でも発達した時代で、調べたい事がどんどん膨らんでいった。辻さんの大阪のおばちゃんを代表するような喋りはリスナーを惹きつける。物が倒れない家とはどんな家なのか見てみたいと思った。常磐ものについては知っていたが、大阪ではあまり馴染みが無いかもしれない。大阪府庁の食堂で福島県産の魚介類が食べられるという話は知らなかった。方丈記は受験の時に冒頭を覚えただけで、内容の事は知らなかった。こうして後世に残すべき出来事を書き残したものは非常に役に立つし、番組としてこれを分かりやすく伝えていくというのは本当に良いことだと思う。分かりやすく、一味違った防災番組だった。

社側 貴重なご意見、ありがとうございました。

議題 2) 「大阪を前へ！」 「兵庫を前へ！」について、

社側 8月30日の番組審議会でご審議いただいた「大阪を前へ！」 「兵庫を前へ！」について審議委員の皆様から、「これらの放送は、特定の政党に偏っていたのではないか。」と厳しいご指摘をいただきました。弊社ではこのことを重く受け止め、社内で調査・検証と対策を進めて参りました。今後は研修を実施して全社員スタッフに放送倫理について知識を深めることや社内のチェック機能を高めるなどしっかりと対応を講じて参ります。

以上